




JAアルプス「ハトムギ」の栽培こよみ(目安)

アルプス農業協同組合・富山農林振興センター 2019年4月改定

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	①圃場準備 額縁排水溝の設置 			②土壤改良資剤散布	③種子消毒	播種作業 (5月中旬～6月20日頃まで) ④耕起・砕土 ⑤播種・施肥 ⑥播種時除草剤散布			⑦病虫害防除 6月下旬 7月上旬			⑨高温乾燥時の畦間かん水 (7月中旬～9月上旬の間、随時) 			⑩収穫 播種後120～130日頃(出穂後60日頃) 						
	圃場を乾かし耕起・砕土の準備					⑧生育期の除草 1)中耕培土 6月中旬～7月中旬 2)除草剤散布 (必要に応じて)			水不足で萎れる前に畦間かん水			コンバインで収穫									

品 種 : あきしずく
播種時期 : 5月中旬～6月20日頃まで

<播種前>

【①圃場準備】

○連作を避けて作付け圃場をローテーションさせる。

○耕起前除草

ラウンドアップマックスロード 10a当り500mlを水100ℓに希釈。
(耕起前又は播種前まで(雑草生育期)2回以内)

○額縁排水溝と基幹排水溝を早めに設置し土壤を乾かす。
・湿害を防ぎ発芽率を向上する。
・砕土率を高め除草剤の効果を高める。

【②土壤改良資剤散布】

○耕起前に石灰質資材を散布する。
粒状貝化石 150kg/10a

【③種子消毒】

○「葉枯病」や「黒穂病」の種子伝染を防ぐため必ず実施する。

10a当り種子量3kg + $\left\{ \begin{array}{l} \text{ベンレートT水和剤20} \quad 75\text{g} \\ \text{+} \\ \text{水} \quad 15\text{ℓ} \end{array} \right.$
72時間(3日間)浸漬する。浸漬終了後2日以内に播種する。

消毒終了後発芽しないようよく水を切り風乾する。

浸種が長すぎ、水切りが不十分だと芽が出て→播種に支障が出る。



<播種作業>

【④耕起・砕土】

○土壤が乾いた状態でゆっくり起こし、砕土率を高める。

【⑤播種・施肥】

○播種
・播種時期 5月中旬～6月20日頃まで
・播種量 **3kg/10a(播種開始時に播種量を確認)**
・栽植密度(大豆播種機) 条間80～85cm、株間15cm
目皿式:目皿B2、スプロケット目皿側10 車輪側13
・播種深度 3～4cm

○施肥量(側条施肥)

LPIはとむぎ専用40～50kg/10a

【⑥除草剤散布】

○播種後ただちに除草剤を散布する。

薬剤名 (使用回数)	適用雑草 (使用時期)	薬量 希釈水量
サターンバロ乳剤 +	水田1年雑草 +	500ml/10a +
ゲザプリムフロアブル	畑地1年雑草	200ml/10a
栽培期間中1回のみ	播種直後～出芽前 (雑草発生前)まで	10aあたり100ℓ散布 (2剤混合散布)

<栽培管理>

【⑦病虫害防除】

薬剤名	1回目(6月下旬頃)			2回目(7月上旬頃)		
	薬剤名	倍率 (倍)	必要 薬量 ^{※1}	薬剤名	倍率 (倍)	必要 薬量 ^{※1}
パダンSG水溶剤 (収穫14日前まで) + ロブラール水和剤 (収穫21日前まで)	1,500	100g	150g	パダンSG水溶剤 (収穫14日前まで)	1,500	100g
対象 病虫害	アワノメイガ、葉枯病			アワノメイガ		
散布量/10a	(2剤混合して)150ℓ			150ℓ		

※1 10a当り150ℓ散布の場合

・薬剤散布の際は、必ず展着剤を加用する。

【⑧生育期の除草】

○播種時に散布した除草剤は2～3週間で効果が切れるため、雑草が大きくなる前に中耕除草する。それでも雑草を抑えきれない場合は除草剤で処理する。



培土が遅れ雑草が繁茂



雑草に負けたハトムギ

1)中耕培土による除草

雑草を抑えるため、また、生育量を確保するために中耕除草を必ず行う。
培土は6月中旬から7月中旬に最低2回は実施する。
(乗用管理機での培土はハトムギ草丈80cmまで可能)



中耕培土の様子

2)除草剤による除草(中耕培土で雑草を抑えきれない場合)

・バサグラン液剤 適用雑草:広葉雑草
使用時期:雑草の3～6葉期(但し収穫45日前まで)
使用量:10a当り150mlを水100ℓに希釈し散布
2回以内
・プリグロックSL 適用雑草:一年生雑草
使用時期:雑草発生期(出穂前まで)(但し収穫60日前まで)
使用方法:畦間処理(ハトムギにかけてはいけない)
使用量:10a当り600～1000mlを水100ℓに希釈し散布
2回以内

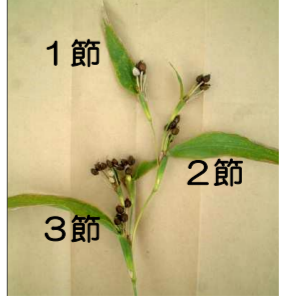
【⑨高温乾燥時の畦間かん水】

○高温乾燥で葉が萎れると生育不良になり、不稔粒が発生するため、土壤の乾燥に応じて畦間かん水し、品質収量を図る。

【⑩収穫】

○収穫適期は播種後120～130日後(出穂後60日頃)で、上位3節の子実の90%が茶褐色になった頃。

収穫適期:
上位3節の子実の90%
が茶褐色



○大豆コンバインか汎用コンバインで収穫する。
大豆コンバインは馬力が弱いので1条づつ刈る。

ハトムギ栽培のポイント